

「食と命と平和

～自給自足の有機農業を学びながら国際交流～

担当教員 高橋五月 板橋美也

コース概要

日程 2019年3月4日～3月7日

場所 栃木県那須塩原市

参加人数 15名

コースのねらい

那須塩原にあるキリスト教系の農村指導者養成専門学校・アジア学院は、自給自足の有機農業・畜産を行い、途上国の農村指導者の育成に力を注いできた学校です。このアジア学院で、様々な国の人々と、基本的に英語を用いながら農作業をしたりレクチャーを受けたりすることで、英語でのコミュニケーション能力を磨くと同時に持続的開発、食・命・平和についての考えを深めることを目指しました。

内容

事前学習では、グループに分かれて FS 実施期間中にアジア学院にて各自調査したいリサーチトピックを決めた上で、FSに臨みました。3泊4日にわたる FS では、アジア学院内のセミナーハウスと呼ばれる宿泊施設に泊まりました。基本的には、毎朝起きたらまずラジオ体操とフードライフワーク（畑での農作業、家畜の世話、朝食の準備など）を行った後、朝食をいただき、礼拝堂での朝の集いでアジア学院の方のお話を聞きました。これらは全て、アジア学院に所属する様々な国の方々と一緒に行いました。その後、ファームワークまたはレクチャー・ディスカッションなどを通して、アジア学院の理念を学び、食と命と平和のつながりについての考えを深める4日間となりました。

レクチャー・ディスカッションのテーマは日によって異なり、1日目は「共に生きるために」というテーマでした。この理念を体現する場所として日本の古民家を改築した礼拝堂を訪れ、様々な文化的・宗教的背景を持つ人々がアジア学院でどのように対等な関係を結びながら共に学ぶことを目指しているか、お話を伺いました。

2日目のテーマは「フードライフ」です。この聞きなれない言葉はアジア学院が大切にしている食と命のつながりを表現するもので、私たちが日々食べているものが他の命をいただくことで成り立っていること、そうすることで私たちの命が活かされていることを、豚舎を訪れたりお話を伺ったりする中で改めて考えさせられるものとなりました。

3日目のテーマである「サーバントリーダーシップ」もアジア学院が大切にしているモットーで、リーダーは人の上に立つのではなく、人に



写真1 「サーバント・リーダーシップ」の理念を体現する、説教台が一番低い位置に設計された礼拝堂でお話を聞きました。



写真2 朝のフードライフワークで豚の世話。

仕えるものである、という理念を表しています。この理念について理解するため、「リーダーに必要な資質とは何か」について皆でディスカッションをした上で、アジア学院のスタッフの方からお話を伺い、さらに「サーバントリーダーシップ」の理念をどのように途上国の持続的開発に活かせるかを、コンゴ出身の牧師の方のお話を伺いました。レクチャー後も、「開発とは何か？」についてグループディスカッションや全体での意見交換を通して批判的に考えました。

最終日のテーマは「コミュニティ」です。この最終日までには、毎晩多くの学生が参加した近くの温泉での入浴・バーベキューなどを通して参加学生同士だけでなくアジア学院のスタッフの方々とも打ち解けることができ、一つのコミュニティが出来上がっているようでした。最初はディスカッションに慣れなかった学生たちも、最終日には熱心にディスカッションに取り組み、4日間を通して学んだことを総括しました。

FS 終了後、あらかじめ設定していたリサーチトピックについて各々が FS を通して考察したことをレポートにまとめ、事後授業ではそのレポートの成果を踏まえて再びディスカッションを行い、話し合った内容を英語で発表してもらいました。

アジア学院は、様々な国の方々と英語でコミュニケーションをとり、共同作業を行う場所であるため、日本でありながら様々な異文化や価値観に触れられる、いわば疑似留学体験をできる場所でもあります。参加要件として英語力は問いませんが、最初は慣れない英語に戸惑っていた学生も、FS 中は一生懸命英語で自分の考えを伝えようと頑張っていました。このように、本 FS は、日本にいながら英語でのコミュニケーション能力を磨き、さらにほぼ自給自足を実現しているコミュニティの中に身を置くことで、普段の生活の中ではなかなか気に留めることのない食と命について改めて考えるきっかけを与えてくれる、貴重な経験となりました。また、途上国の開発に関心をもつ学生にとって、アジア学院の掲げる理念は、新たな視点を提供してくれるものとなりました。

学習を終えて

○参加学生より（1年 池末奈央）

私にとって那須の FS はとても有意義なものになりました。

私たちは常日頃から数えきれないほどのいのちを頂いて生きています。実際に豚の餌を作り与えるという過程を経験することや、生後間もない豚の赤ちゃんを見て生命の大切さや尊さを感じました。また、実習先では食前にお祈りをし自らが食事を摂ること、今自分が生きていることに感謝します。日々の当たり前を口に出すことにより当たり前の大切さに気づかされました。

今回の FS で如何に私たちが恵まれた環境の中で生きているかわかりました。そして、多くの人が食事や生命を大切にできる未来はどのようにして創り出すべきか考える契機となりました。

○受け入れ先より（アジア学院 山下崇さん）

豚の世話やスパイスから作るインドカレー、アフリカ人の独特のアクセントの英語など慣れない環境の中それぞれにチャレンジがあり、参加した学生たちはそこから多くのことを感じ取ってくれました。命の大切さ、英語を学ぶモチベーション、開発に対する考え方 etc...

個人的には毎日行った温泉と、サーバントリーダーシップの講義での学生のクリティカルな質問が忘れられない思い出となりました。ぜひまた、迎え入れることができればうれしいです。



写真3 ファームワークで畑に肥料をまきました。



写真4 学院内で生産した野菜・卵・肉などで作られた食事。料理も国際色豊かでした。



写真5 「リーダーに必要な資質とは何か？」について、グループごとに模造紙にまとめて発表しました。